

自分は自分



大寄小学校6年 森田拓也

ぼくは、口の周りにほくろがあり
ます。
そのほくろは小さいころは一つ、
今は三つあります。どうしてこんな
所にあるのだろうかと考える時もあり
ます。だって友達はないのに。な
んでほくろだけあるのだろうと、少し
悲しくなりました。さらに、体にも
ほくろがあるのでとてもいやでした。
ぼくは、ほくろを数えるとふえる
と聞いたことがあります。だから、
友達から数えられるのが、とても気
になりました。

さらに、Aさんに、
「ほくろは、ほくろを数えるのとふえる
と聞いたことがあります。だから、
友達から数えられるのが、とても気
になりました。」
「でもくろは、ほくろを数えるのとふえる
と聞いたことがあります。だから、
友達から数えられるのが、とても気
になりました。」
「口のまわりのほくろは、一生食べ物
に不自由しないよ。幸せな事だね。」
と話すのを聞いて、ぼくは、はっと
しました。
「そうだ。ほくろは、幸せのしるしな
んだ。気にする事はない。」
と思いました。
だから、前は気にしていたほくろ
が、今はまったく気にならなくなり

ました。そんなことを気にしてい
たら、つまらない事だと思いまし
た。ぼくは少し前向きに考えるよ
うにしました。そして、心の中で
さげびました。
「自分は自分」だと。
むしろこのほくろがなければ、
ぼくがほくろでないのだと思いまし
た。だから、このほくろは、ぼく
の大きな味方なんだと思いました。
また、小さなほくろに、何十倍
も何百倍もぼく自身を大きくされ
たような気がしました。

そして、ぼくは何か言つとき
も相手の気持ちを考えて、それを
言つたら相手がどんな気持ちにな
るかを考えるようになりました。
だから、みんなも、相手の立場に
たつてくれればよいなと思いまし
た。そうすればだれ一人きずつく
人はいないんじゃないかなと思ひ
ました。
テレビで、指が不自由なのに、
ピアノをひいている人を見ました。
しょう書をのりこえて、すごいと
思いました。
世の中には、ぼくよりももっと
つらい事に立ちむかつてがんばつ
ている人達が、たくさんいると思
います。
その人達と同じように、つらい
事に立ちむかつていける人間にな
りたいです。
ぼくはこんなことでは、くじけ
ません。
だって、自分は自分だから。

夢

なかるべからず

わたなべまさひと 渡辺 正人さん

冷静と情熱のレーサー



快拳

200 Km/hを超えるスピードと不
規則な路面に揺れる視界。
横に乗るパッセンジャーの動き
を敏感に感じ取り、巧みなハンド
ルさばきでコーナーをクリアする。

70分にも及ぶ激闘、ゴールとと
もに達成感と安堵感から大きく息
が溢れた。
サイドカードライバー 渡辺正人。
会場は「マン島TT・2 戦連続
完走」という快拳を達成した彼ら
への賞賛の拍手に包まれた。

武者と生まれて描く虹

〜 畠山重忠伝説 〜



頼朝の最期

文治元年(1185)三月、
範頼・義経率いる鎌倉軍は壇
ノ浦の海戦で平家を滅ぼし、頼
朝の勢力は全国に及ぶようにな
る。この頃、勢いづく義経に対
し、逆櫓の一件で恨みを持って
いた梶原景時は、義経について
の讒言を頼朝に行つた。それを知
らぬ頼朝は、後白河法皇を動か
し義経追討の院宣を引き出して
しまふ。翌文治二年、頼朝は義
経を追いつつ、捕らえていた静
御前に、鶴岡八幡宮での舞を命
じた。その際、銅拍子をつとめ
たのが重忠だった。重忠は智仁
勇を備えているばかりでなく、
風雅の心にも通じていた。
義経亡き後、梶原景時の策略
は重忠に向かった。本拠の武蔵
国菅谷館に下向していた重忠が
謀反の準備をしていると、頼朝
に申し立てたのだ。重忠は
それを聞いて、「このような恥辱

は耐えられん」と徐に刃を抜く
や自害を図つたが、幸い周りに
押さえられ命は取り留めた。そ
の後、景時は重忠に、全く謀
反心がないなら起請文を書けと
命じるも、「源家を主と仰ぐ身
で一心などあるはずない」と重
忠はきっぱり断つた。それを聞
いた頼朝は特に重忠を咎める
ことをせず、かえつて重忠への
信頼を厚くした。頼朝は文治五
年三月の奥州討伐や建久元年
(1190)の上洛に際し先陣
を重忠に命じたのだ。つた。
建久三年、頼朝は征夷大将
軍に任じられ、日本の歴史は大
きく転換する。しかし、正治元
年(1199)正月、頼朝は落
馬がもとで亡くなつてしまふ。
頼朝は今際の際に重忠を呼び寄
せ、幕府の後事を託した。重忠
はこの言葉を堅守しよう心に
誓つた。しかし、その重忠の忠
誠心が重忠自身の最期を早めよ
うとは、知る由もなかつた。

新たな「カ」

サ イドカーレースとの出会いは
35歳、知人の誘いからだった。
頭からコーナーに飛び込むような
スリル。初めてバイクに跨つた常盤
小学校4年のとき受けた衝撃を、再
び思い起こさせた。
デビュー戦は最下位だった。しか
し、測量士である渡辺の目は、正確
にカーブを捉えることができた。
1年後には上位に名を連ねるよう
になっていた。



息の合ったコーナリング
パッセンジャーが体を傾けて重心を移動する

命をかけたレース、心配する妻を
よそに、恐怖はむしろ快感に変わつ
ていた。そんなときだった。練習中
に猛スピン、全身打撲を負つた。1
か月の間、ベッドで天井を眺める
だけの日々が続いた。
苦しいりハビリ生活の中で、家族
が支えになった。

いつか、日本で

左右非対称という特殊なマシンを
ゴールへ導くには、恐怖に打ち勝つ
強さとともに、スリルに身を任せず、
自分を抑えられる自制心が必要だ。
家族への思いが、新たな力と
なった。
05年、全日本サイドカー選手権
の年間王者に輝くと、07年5
月、ついにサイドカーレーサーの夢
「マン島TTへの出場を実現させた。
『いつか、日本版マン島TTを...』
新たな夢を胸に帰国した夫を
「来年もまた出たいなんて言っ
じゃないでしょうね!」
妻のイタイ一言が出迎えた。
笑つてごまかしたが、「心を見透
かされているようだった」と渡辺は
恥ずかしそうに笑つた。

夢七訓

夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし
ゆえに 幸福を求める者は
夢なかるべからず

(本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています)